

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401665		
法人名	有限会社 メティス		
事業所名	グループホーム あさひの杜		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条二丁目4番24号 (電話)011-681-3022		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年4月3日	評価確定日	平成20年4月10日

【情報提供票より】 (平成20年 3月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年12月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	7 人	常勤	5人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 15,000 円 暖房費: 7,500円 (10~4月)	
敷金	有 ( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	込み 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月 25日現在)

利用者人数	5名	男性	2名	女性	3名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 75歳	最低	63歳	最高	83歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団宮の沢総合クリニック	なかお歯科医院
---------	------------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あさひの杜」は、JR手稲駅から徒歩で5分ほどの市街地に立地し、交通や生活に便利である。運営者は家族の介護体験を機に、医療・福祉の仕事に従事し、認知症高齢者の人権を保障する実現に熱心に取り組んでいる。それらの経験を持ち、少人数での生活が最も望ましいとするノルウエーのホームづくりをモデルに、平成17年に民家を譲り受けてホームを設立している。周辺の理髪・衣料品店、生鮮小売店や大型のストアなどの生活圏に溶け込んでおり、利用者は広い庭園の一角で野菜づくりをしたり、隣接する会館の催しに参加するなどして生活を楽しんでいる。管理者と職員は良質なサービスを提供し入居者、5人の家庭的で自由な暮らしを支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は指摘された、理念の表示は分かりやすく、介護計画は毎月のカンファレンスで共有化し、金銭管理では、領収証を毎月送付している。職員の緊急時の対応は訓練されており、研修では、職員体制も整備し、内部研修を充実させる方向で取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は地域密着の新しい評価の意義を理解し、職員と項目内容を話し合い、まとめた。また、評価項目を前向きに捉え、全体的に取り組む方向で進めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、ホームでの生活状況を詳細に報告している。会議で防災についての意見があり、早急に全居室へ警報装置を設置した。自己評価・外部評価の結果も報告している。入居者の受け入れや利用者の生活保護受給の相談など、管理者は頻繁に出向き、札幌市、手稲区の担当者との関係づくりに努めている。一方、管理者は市からの認知症対応についての講演依頼も受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの「あさひの杜・たより」を毎月発行し、ホームの全体的な内容を報告し、個人の欄には近況を載せている。玄関外回りについての要望が意見箱に入っていたので、すぐに、花壇をつくり対応した。年に2回、交流も含めた家族会を開き、そこでの意見を吸い上げ、家族とのコミュニケーションを大切にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	運営者でもある管理者は町内会の役員をしており、町内会会長や近隣住民との協力関係を築いている。隣の「手稲中央会館」での催しに参加し、利用者は民謡、カラオケ、囲碁等を楽しんでいる。一方、町内会によるホームの花壇作りや地元の店舗や関係者の配慮も日常的にある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の高齢者を支える視点として、人権擁護を最も大切にし「入居者の尊厳と自立、自由と安らぎ」の理念をつくりあげているが、地域密着型の表現が見当たらない。	○	運営者は近隣住民との協力関係を積極的に進めており、また、交流も実際に行なわれているので、その地域性の内容を加えた理念に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、申し送りや毎月のカンファレンスで理念について話し合っている。日々のケアで理念に基づく対応になっているか、常に振り返り、人権擁護への気付きを深めるように検証している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者でもある管理者は町内会の役員をしており、会長や近隣住民との協力関係を築いている。隣の「手稲中央会館」での催しに参加し、利用者は民謡、カラオケ、将棋、囲碁等を楽しんでいる。一方、町内会によるホームの花壇作りや地元の店舗や関係者の配慮も日常的にある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は地域密着の新しい評価の意義を理解し、職員と項目内容を話し合い、まとめた。また、評価項目を前向きに捉え、全体的に取り組む方向で進めている。前回の外部評価で指摘のあった点は、改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、利用者の健康障がい予防や行事など、詳細にホームでの生活状況を報告している。会議で防災についての意見があったので、早急に全居室へ警報装置を設置した。自己評価・外部評価の結果も報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の受け入れや利用者の生活保護受給の相談など、管理者は頻繁に出向き、札幌市、手稲区の担当者との関係づくりに努めている。一方、管理者は市からの認知症対応についての講演依頼も受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの「あさひの杜・たより」に、入居者の状況や行事、また、職員の交代等、ホームの全体的な内容を報告し、個人の欄には近況を載せている。家族の訪問は最低でも週2回と頻繁にあるので、その都度、話し合い、金銭管理では確認印を貰い、領収書は請求書と一緒に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関外回りについての要望が意見箱に入っていたので、すぐに、花壇をつくり対応した。年に2回、交流も含めた家族会を開き、そこでの意見を吸い上げ、家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が変わることによる利用者へのダメージを理解しているが、職員には認知症に対応する職業人としての高い専門性を求めているため、交替も多い。利用者の暮らしを保障するため、人材も考え環境づくりをしているところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は利用者の人権を保障するために、日々のケアを検証する力量を培う研修を重点的に進めている。介護職3年目の職員は「認知症介護実践研修」を受講しており、業務扱いで、今年も予定している。それらの外部研修が内部研修の中で十分に活かされていないので、職員体制を整備して、内部研修に取り組む予定でいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、札幌市、手稲区の「グループホーム管理者会議」、地区の医療・福祉関係者の研修「高齢者地域ケア連絡協議会」にも積極的に参加し、専門的な知識と人脈の輪を広げている。職員は、近隣にある2ヶ所のグループホームと相互訪問での交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の見学をすすめ、入院中の希望者には管理者が訪問し、基本的には納得して入居してもらう。利用者が安心して過ごせるように、顔なじみの管理者が、過去の話や気掛かり、やりたいことなどを聞き出し、安心してホームの環境に馴染めるように1週間かけて、じっくりと対応している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は野菜や花の育て方を利用者から学び一緒に作業をしている。野菜の収穫時には、きゅうりの一夜漬けを教わり、利用者の得意な面を引き出している。庭の花を摘んで、「クレイクラフト」（粘土細工）で利用者も楽しみ、それらの作品が玄関に飾ってあり、季節感の彩が添えられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望を聞き出し、意思表示が困難な利用者には、話しかけながら表情、動作を見逃さないように努めている。2週間単位で主担当者が観察した記録をもとに全員で話し合い、本人の意向を把握してプランに載せている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初の計画は、入居前の家族情報、介護認定資料、あるいは病院のアセスメント情報をもとに、本人意向も取り入れたアセスメントを行い、計画作成担当者が中心になって計画案を作成する。これを管理者を含むカンファレンスで検討したうえで、作成した計画を家族に確認して計画とする。	○	アセスメントはセンター方式がベストと考え、目下準備中で、6月からは採用予定、とのことなので、その実現を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	当初の計画は、病院情報や家族情報が必ずしも正確でないこともあり、運用後早い時期に見直しをする。経常的には3ヶ月ごとに定期的な見直しをする。主担当職員が日ごろ観察し、気のついたことを記録しておき、これに他の職員の意見を加えて集約整理し、家族の意見、本人希望を加えて原案を作成する。以後は上記と同様の手順で作成する。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、協力関係にある医療機関や老人保健施設の利用に便宜を計らっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始に際してかかりつけ医や希望医療機関を確認し、それらとの関係を築きながら継続して医療が受けられるように支援している。希望に応じて協力医療機関に切り替えており、内科、歯科それぞれ月2回の訪問診療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後3ヶ月以内に、重度化や終末期の扱いについて本人、家族と話し合い、意向を書面にして契約書に後日挿入している。ホームとしては基本的に本人・家族と医師の話し合いの結果を尊重し、これを支援する形をとっている。話し合いは必要に応じて繰り返し行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	せかしたり、とがめたり、否定するような言葉かけは戒めており、親しすぎる対応にも気をつけている。個人情報書類は鍵のかかる棚に保管し、書きかけの書類を他人の目に触れることのないように気をつけるなど、プライバシーの確保は徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の業務よりも利用者の要望を優先する意識を持って介護に当たっている。トイレ、食事、就寝への誘導すら最小限にとどめて、極力利用者の自由に任せる方針を基本としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は業者に作成を委託し、利用者の希望を取り入れて適宜修正している。食材の準備、盛り付け、下膳、食器洗いなど各自それぞれに役割を分担している。職員もともに食卓につき、和やかに会話しながらゆっくり時間をかけて食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月・金曜日、時間帯は11時から夕方までと決めているが希望や必要に応じてほかの日でも対応しており、実質週5回ぐらいになっている。一人が30分ぐらいをかけてゆっくり入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を生かして掃除、水まき、新聞とり、各室のごみ集めなどの家事のほか、歌や体操の時の音頭とりなどの役割を分担している。習字、カラオケ、風船バレー、お手玉などで楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩への外出はほぼ毎日行われており、少ない人でも週に1回は外出している。そのほか、隣接の手稲中央会館、大型店、公園にも出かける。季節によっては花見や「平和の森」（温泉、花畑）への遠出もする。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に施錠していない。今のところ心配な利用者はいないが、玄関ブザーを検討中である。近隣の店舗、手稲中央会館、郵便局などが協力的で、利用者を見かけたときは通報してくれる関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する町内会長宅が避難所となっており、消防への通報体制もできている。運営推進会議で関係者への協力要請もできている。避難訓練を年2回実施しているが、部分的で、総合的な訓練としては不十分と考えている。	○	全職員、近隣住民および可能であれば利用者也参加しての現地総合訓練を実施したいとの意向なので、その実現を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量はバイタルチェックとともに一覧表に記録して管理している。栄養バランスは献立立案を委託している業者で専門的な管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通常の民家を改装したホームであるが、広い庭と畑を備え、堅牢で良質の普請で、快適な居住空間となっている。広くはないが定員5人という少人数には十分なスペースの食堂と居間が確保されている。使い込んだ民家の暖かい雰囲気、飾りすぎず、さりげなく季節を感じさせる装飾が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もとが民家のため、各居室は広さも異なり、洋風、和風あり、中には床の間つきの座敷など、それぞれに個性豊かなしつらえになっている。なじみの家具、敷物、装飾などが豊富に持ち込まれ、施設的な冷たい雰囲気は全くなく、家庭的な温かい雰囲気に満ちている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。